

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	事業所理念を煮詰めていけるよう、職員相互の研鑽の場を作り、利用者様個々人の暮らしの在り方を支援していけるよう、取り組んでいきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族の方も漠然とした理解であると思われる為、機会をみつけては浸透できるよう努力していきたい。また、今後ホームの広報誌を作り、家族・地域問わず広く理解していただけるように努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近隣の寄り合い所的な役割を担えるよう、窓口を広く持つ意味での工夫を管理者・職員で考えていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地区活動に参加できる体制を作りたい。また、小学校や老人会等との交流も深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	季節行事を通じて、地域の高齢者及び他施設の高齢者、職員との交流を行っている。	○	今後、当ホームに求められているものがどのようなものか、自身で考えていくとともに、地域からの声も聞かせてもらい、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して初めての評価にて、理解不足ではあるが、今回全職員で取り組んだことにより、これまでの実績を踏まえ、これからのレベルアップにつながるよう取り組んでいきたい。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回は確実に開催し、その中での意見や要望に関しては、サービス向上に生かせるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適宜、電話連絡を行い、また、必要に応じて、行き来する機会を設けている。また、関係作りの為に行事参加への呼び掛けもしている。	○	今後も、疑問点や困った点はもちろんのこと、良好な関係を維持していけるよう、つながりを深め、サービス向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点では、学ぶ機会を持っていない。今後、必要性を考慮し、勉強する機会を持ちたい。	○	勉強する機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営者、管理者により、会議等を通じて、指導が行われているので、虐待防止の認識を持ちながら支援を行っている。	○	定例会議、各ユニットミーティングを活用し、専門的に学ぶ機会を設けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分に事業内容等、説明している。また、現時点においては、解約の経験なし。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満や、苦情がある時はゆっくり話を聞き納得いくように話をしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、近況報告するようにしている。	○ 今後、ホームの広報誌を作り、近況をお知らせしていきたい。また、必要に応じ、ここに応じた報告も行っていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱等の設置はあるものの、活用されていない。	○ 多くの意見等を吸い上げ、また表記し、事業の運営推進に反映していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定期会議にて、気付きや改善点などの意見交換を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等に職員が確保できるように勤務調整を行ったり、職員の勤務の要望に関しても、極力浴えるよう調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までに1名の離職者あり。その際は、馴染みのある管理者やユニット兼務職員を配置し、新規職員が配置された際も、ユニットリーダーが付添い、影響が最小限に抑えられるよう努めた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修を定期的にする事ができるような体制がまだ整っていないのが現状である。	○	外部研修を交互に受けることができるような体制つくりと、ホーム内でのトレーニングも進めていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	ホーム行事への招待、案内を出し、交流を行っている。その際、情報交換を行い、勉強している。	○	交流が密になるよう、ネットワーク作りに努め、また、他ホームの見学なども出向いていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者は定期的にホームへ出向き、職員とよく話した職員の変化についてはよく観察するように努めている。		職員間での意見交換や情報交換の場も定期的に持ち、ストレス軽減に努めていきたい。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	ホーム行事への招待、案内を出し、交流を行っている。その際、情報交換を行い、勉強している。	○	努力や実績や勤務状況についてはよく把握するように努めていきたい。資格取得についても、励行していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談があった時点で十分に話を聞き、受け止めていけるように努力をしている。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居前に出来る限り、ご本人、家族に見学に来て頂き、その時に状況をききながら、話をゆっくり聞ける時間を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援を充分に見極め、ホームでできる支援はさせていただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限りサービス開始前に見学をしてもらい雰囲気を感じていただき、その後も徐々に馴染めるよう、居室の雰囲気づくりや家族の協力(面会・電話連絡等)をもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に寄り添い、笑いのある関係が築けるよう努めている。1人1人の人格を認め合い、人として対等な関係を築き上げていきたい。	○	その人らしく暮らし、感情が豊かに表現できるために、私たちが出来ることは何かを職員全体で考えていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には積極的に話をして、その方を支えていけるように家族との信頼関係をつくっている。	○	報告などの話を通じ、家族の意見等を吸い上げ、より本人の理解を互いに深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、日々の暮らしについて、報告をするとともに雑談の中で、生活歴などゆっくと本人の話をし、共通理解を深めるよう努めている。	○	今後も継続していけるよう意識していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム近隣の利用者様に対しては、自宅周辺へ一緒に散歩へ出かけ、自宅が遠方の利用者に対しては、ドライブにて馴染みの場所へ出掛けるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係把握に努め、トラブルを未然に防ぐよう、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設し今まで終了した方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意思を尊重して、主体的な生活が送れるようサポートしている。	○	自分から訴えの少ない利用者に対してのコミュニケーションが少なくなってしまうように常に心がけていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者がこれまで身につけている生活習慣を修正せずに、ありのままを受け入れ尊重している。	○	情報の少ない利用者の方は、家族の面会時に話を聞き、これまでの生活歴などの情報収集に取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の経過記録や勤務者の話を聞く事で、現状の把握を行い、又、毎日の検温・血圧測定等にて健康状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、スタッフで話し合いを行い、利用者や家族の意向などを取り入れて計画を作成している。	○	利用者本位の計画となっているかの振り返りを常に意識していくとともに、サービス担当者会議も家族参加を積極的に呼びかけ、意向を吸い上げ、計画に反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の書面上の書き換えは、遅れている状況。但し、状況の変化に応じて担当者で話し合い、計画の追加・変更を随時行っている。	○	随時、計画の見直しを行い、書面に落とし込み、関わる者全員の共通理解を深めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録の詳細な記入と職員間の情報交換を密にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援をおこなうようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現状としては、意向等はない為、実施なし。	○	そのような場合は、柔軟に考え、必要な資源に支援を求め、利用者の意向に沿えるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ、特に行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議においては包括支援センターからも参加をいただいている。 また、地域における情報など、常に連絡を取りあいながら、協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医での継続可能であるも、利用者、家族希望により、当法人の医療機関へ変更している。定期的に医師、看護師が往診している。また、体調不良、異変があった際は、速やかに連携し、対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>チームとしてのあり方を職員や関わる者で学ぶ機会と、少しずつ今後の変化にそなえての準備やマニュアル作成などを計画していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に状況を把握し、言葉かけや対応など十分に気を配っているが、感情が出て声が大きくなってしまふときもある。ホーム内の関係書類は持ち出しを禁じている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりがあらゆる面で自己決定できるよう、支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしの中で、職員が無理強い事のないよう、その方のペースで生活できるよう、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えの際には、なるべく自分で洋服を選んでもらい、困難な方は一緒に選んだりする。理美容に関しては、望むところがある際は、家族へ協力依頼している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に畑へ行き、季節の野菜を収穫し調理している。また、利用者の意欲に応じ、準備、片付け等、職員とともにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、喫煙者はいない。行事の時などにビールを出したりして、楽しんでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排せつパターンを記録し、把握に努めている。定期的な声かけ本人の意思による誘導に努めている。	○	紙パンツから布パンツへの移行。パット使用の減少に取り組みたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの自己決定に基づき、その日の体調を考慮したうえで、入浴していただくよう、支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体調に合わせて、レクリエーション、散歩、ドライブ等活動し、快適に眠ることができるよう、支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の得意な事に合わせて、手伝ってもらっている。(配下膳・裁縫・洗濯など)負担にならないような声かけをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さは十分理解している。金銭は小遣い程度、事務所で預かっている。外出する際に持っていく事はあるが、なかなか使う事はない。	○	金銭管理能力を維持できるよう、買い物などに行く時に少しでもお金を持つことができるよう配慮していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所へ散歩に出かけたり、頻度としては少ないが季節ごとにドライブに出かけたりしている。希望がある場合には可能な限り、その都度対応していくようにしている。	○	外出の機会を多く持っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望に添い、家族と相談し外出の機会作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに十分配慮し、コードレス電話を使用し、居室にて電話していただくようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人などが訪問しやすいように、スタッフが歓迎し、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。スタッフとのコミュニケーションも大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼夜を通して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、門扉の開錠を実施している。利用者の安全を確保するため、見守り・強化に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は利用者の行動を見守り、夜間は定期的な巡視にて、安全確認に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意を要する物品は、利用者の手の届かない所にて保管、又は、施錠し、保管するようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	できる限り未然に防ぐよう、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	定期的に事故防止に向けた勉強会を計画し、必要な知識を身につけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDを備え、緊急時に職員全員使えるよう訓練を行っている。	○	全職員が、応急手当ができるように知識・技術の習得のための勉強会や実技を計画していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡手段や、すぐに避難できるように避難訓練を行い(現在、開設時から1回のみ)、安全確保に努めているが、不十分である。	○	地区の消防団との協力体制づくりを行っていく。また災害に備えての備蓄も考え、少しずつ物品の準備をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在行っている対応について説明し理解を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後のバイタルチェック実施。それにより、変化がみられた場合は、上司への報告、様子観察を行い、時間をおいて再施行により、早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情により、作用・副作用を確認。薬の変更等があった場合には、全職員が把握できるよう、申し送りノートに記載、周知徹底している。飲み忘れや誤薬がないように細心の注意を払っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便表により、一人ひとりの排便パターンを把握するよう、努めている。便秘の方は、医師の指示に基づき、下剤服用をしていただく事もある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけにて、口腔ケア実施。義歯洗浄等の確認により、一部介助し、口腔内の清潔に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量の記載をし、一人ひとりの摂取量把握に努めている。食べる量に合わせ、バランスの良い食事を作るよう心がけている。また、定期的に水分補給ができるよう支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	面会の方のマスクの着用、手指の消毒の実施等。調理前の手の洗淨、アルコールによる消毒。疥癬においては、毎日の入浴の実施など。おしぼり等の殺菌消毒。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	十分に配慮しており、調理器具などの消毒も行っている。食材の管理も十分に注意し、期限のチェックも随時行っている。食中毒予防の為、調理後2時間以上の食事は処分するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや庭に季節の花を植え、畑では、野菜を作り収穫を楽しめるよう、雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽やテレビ番組の選択、音量に配慮し楽しんで頂いている。また、季節の花や制作した作品等を掲示し、楽しみのある環境作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルのある場所の他に、畳ベンチのある居間があり利用者はそれぞれに利用している。全くの独りになれる場所は個室しかない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人の相談にて好みのものが持ち込まれている。仏壇を持ち込んでいた方も少し前までいらした。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際には、常に戸をあけ空気交換をしている。温度調節については、その都度利用者様の体調や気温に合わせ、こまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人それぞれの行動範囲に応じ、座りやすい場所動きやすい場所を提供している。また、通路となるところには障害物を置かないようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人に応じた活動を見出し、手伝いや仕事を依頼する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホールより庭に出れるようにしており、また、外にはベンチを置き、外を眺めたり、畑を作り自然とのふれあいを持つことができるようにしているが、できる方は限られている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者主体となる生活を送っていただけるよう、スタッフは側面から支援していく努力をしている。
- ・常に笑顔を決やさず、明るい気持ちで暮らしていただけるよう配慮している。
- ・身体拘束を行わない努力と、工夫を日々考えている。